

大 学 史 研 究 通 信

第 65 号、2011 年 2 月 4 日 (金)

大学史研究会

第 65 号の内容： 会員ニュース・第 33 回大学史研究セミナー報告・第 34 回大学史研究セミナーのご案内・事務局員の交代と業務分担について・2010 年度総会報告・2010 年度会計報告・2010 年度までの年会費未納の方へ-納入のお願い-・セミナー参加記『大学史研究』編集委員会開催のお知らせ・会員新刊ニュース・事務局からのお知らせ・編集後記・大学史研究会事務局員一覧

会員ニュース

新入会員

松本智治 (まつもと ともはる) 会員

所属：日本大学大学院総合社会情報研究科博士前期課程 人間科学専攻

研究テーマ：西欧中世における大学と社会動態、20 世紀米国知識人と大学

異動のあった会員

林 透 会員

新所属：北陸先端科学技術大学院大学 大学院教育イニシアティブセンター

深野 政之 会員

新所属：一橋大学大学教育研究開発センター

第33回大学史研究会セミナー報告

第 33 回大学史研究セミナーは、2010 年 11 月 20・21 日の両日、京都駅前にあるキャンパスプラザ京都で開催された。今回のセミナーは、会場の提供と運営について深野政之会員（開催当時、京都 FD 開発推進センター）にご尽力いただいた。2 日間で 28 名の参加者があった（会員 23 名、非会員 5 名）。

初日は、事務局の企画によるシンポジウム「教養教育の比較史的考察」が行われた。現代の高等教育においても重要な課題である教養教育について、国際比較の視点から各国における教養教育の理念的基盤を探ることを目的とした。イギリス：中村勝美（西九州大学）、フランス：上垣豊（龍谷大学）、アメリカ：立川明（国際基督教大学名誉教授）、日本：渡辺かよ子（愛知淑徳大学）の 4 氏に、各国の教養教育の歴史的展開の特質や理念的論争についてご報告いただき、教養教育を巡る多様な観点について議論が行われた。

はじめに中村氏は、19 世紀のイングランドにおける大学改革や教養教育のあり方を巡る論争を取り上げ、オックスフォード大学やロンドン大学の学士課程教育の内容や方法の特色について論じられた。上垣氏は、教養教育とディシプリンをテーマとし、19 世紀のフランスにおける古典人文学を中心とした知的訓練を巡る論争と教育改革について論じられた。立川氏は、20 世紀前半のアメリカ合衆国での教養教育を巡る議論を

取り上げ、科学による伝統的教養への挑戦が生じる中で、人文学や古典教育の重要性を主張する立場から展開された言説や具体的取組について論じられた。最後に、渡辺氏は、1930年代の日本に着目され、当時の多彩な教養論を紹介しつつ、大正教養主義に対する批判に根差し、戦後の一般教育受容の思想的基盤を準備した思想的状況について、教養「教育」というカリキュラム論に限定されない視点から論じられた。

報告後の討論では、参加者から、中等教育と高等教育で求められる教養教育の違いと連続性、教養教育の持つ階級性、カリキュラム外での人格形成、コンピテンス論などについて質問が提起され、パネリストとの間で議論が行われた。

4つの報告はいずれも、教養教育に関する多くの歴史的事実と多様な観点を提供してくれるものであった。限られた時間の中では十分に深められなかった論点も多々残ったものの、教養教育という古くて新しい問題に向き合っていくことの面白さと重要性を改めて認識する機会となったといえる。今回の充実した報告内容を材料に、何らかの形で会として継続的に議論できる機会があればと願っている。

2日目には自由研究発表が行われた。今回は4件の発表申し込みがあった。大西巧(神戸親和女子大学・非常勤)、井上美香子(九州大学)、林雅代(南山大学)、坂本辰朗(創価大学)の各会員から、いずれも詳細かつ熱のこもった報告が行われた。各発表につき、1時間の発表と議論の時間を取ったが、時間が足りないほどのコメントと質問が挙がり、活発な議論が交わされた。

セミナーに参加された山崎慎一会員から参加記をお寄せいただいた。本通信に掲載しているのでご覧いただきたい。有意義なご報告を準備いただいた8名の報告者と深野会員に改めて深謝申し上げる次第である。

(事務局セミナー担当 福留東土)

2011年・第34回大学史研究セミナーのご案内

前号でもお知らせした通り、2011年の第34回セミナーは岩手大学に会場校をお願いすることになりました。10月から11月にかけて開催する予定です。詳細が決まり次第、本通信及びホームページ上でお知らせ致します。会員の皆様のご参加をお待ちしています。

(事務局セミナー担当 福留東土)

事務局員の交代と業務分担について

第33回セミナーを機会に、新しく五島敦子会員(南山短期大学)に事務局に入っていただくこととなりました。同時に、田中正弘会員(弘前大学)が事務局から退任されることとなりました。長年のご尽力に深く感謝申し上げます。

来年度のセミナーまで、事務局の運営は以下の業務分担により行います。引き続き、会員の皆様のご協力をよろしくお願い致します。

セミナー：福留

紀要：岡田

会計：沖塩

名簿：浅沼

通信：井上・五島

(事務局代表 福留東土)

2010年度総会報告

2010年度 大学史研究会 総会 議事録

2010年11月20日(土)
於：キャンパスプラザ京都
事務局作成

1. 2010年度活動報告

福留局員より、2010年の活動として若手会員交流会を開催した旨報告があった。13名の参加があり、充実した交流会であったことがあわせて報告された。

2. 紀要編集委員会報告

紀要担当の岡田局員より、『大学史研究』第24号を刊行した旨報告があった。同号より『大学史研究』を市販化したこともあり、定期的な紀要の刊行が望ましく、そのためにも会員からの積極的な論文の投稿が必要であることが説明された。

つづいて岡田局員より、市販化の第1号となる『大学史研究』第24号の刊行が無事行われたので、編集委員長の交代を含めた編集委員会の体制を見直したい旨、報告がなされた。

また、『大学史研究』第25号より、阪田蓉子会員が紀要編集委員として新たに加わる旨、報告された。

3. 2010年度決算報告および2011年度予算案

会計補佐の浅沼局員より、2010年度年度決算について報告があった。また、2011年度予算案について説明があり、了承された。なお、これに加えて年会費納入の協力も求められた。

4. 会員名簿作成について

会員名簿担当の浅沼局員より、名簿作成について以下の報告があった。名簿作成のための調査票の返送率が現段階で70パーセントであり、返送のない会員については以前登録頂いた情報のままで名簿を作成することが改めて説明された。なお、来年の2月には名簿を発送できるよう努力して校正作業をすすめている旨、報告がなされた。

5. ホームページの移管について

岡田局員より、国立情報学研究所による学協会情報発信サービスの終了に伴う大学史研究会のホームページの構築に関して以下の報告があった。現在、民間のホスティングサービスを利用したホームページの構築を検討しており、委託する業者については来年の総会で報告したい旨説明があった。また、運営費用として1万円程度で検討していることもあわせて報告された。この件に関し、会員より、1万円という運営費用にこだわらず、付加サービスを利用してより充実したホームページの運営が可能なサービスを利用の方がよい旨の意見がだされた。なお、本件について引き続き事務局で検討していくこととなった。

6.2011 年度研究セミナーについて

福留局員より、2011 年度研究セミナーの開催について、次年度研究セミナーは岩手大学で開催し、開催の時期としては 10 月から 11 月末で検討しているとの報告があった。

なお、シンポジウムのテーマを募集しており会員からの提案を積極的に頂きたい旨、依頼があった。

7.その他

福留会員より、事務局員を 1、2 名増加して事務局の体制を増強していきたい旨の説明がなされた。なお、事務局員の増強については総会での承認をとらずに、『大学史研究通信』をとおして紹介していきたい旨、報告された。

大学史研究会 2010 年度会計報告

大学史研究会 2010 年度会計、ならびに、2011 年度予算案につきまして、以下に概要をご報告いたします。

* 2010 年度収支報告

【 収入 】

2009 年度会計からの繰越金は、3,697,882 円でした。

年会費は、一般会員：5,000 円、大学院在学・日本学術振興会特別研究員会員：3,000 円です。

2010 年度年会費につきましては、77 名の会員より納入いただき、前年度のセミナー終了後に納入して下さった分も加えると、年会費・入会金の納入総額は、576,000 円でした。

ここ数年、総会時点での年会費の納入率は、6 割程度の状況が続いております。今年度は 58.8%でした（昨年度より 2.9%減少）。

年会費をお納め下さった会員各位におかれましては、この場を借りてお礼申し上げますとともに、今後も引き続き研究会の発展と円滑な運営のために、年会費納入に対するご理解ご協力をお願い申し上げます。

なお、年会費に関連いたしましては、2010 年度分までの会費未納の方を対象として、「年会費納入のお願い **再送**」と払込票を再度送付させていただきました。

この納入依頼通知の再送によって、昨年度は 26 名の方から納入いただきました。今年もご理解ご協力いただきたく存じます。詳しくは、後述の「2010 年度分までの年会費未納の方へ — 納入のお願い —」、および、「年会費納入のお願い **再送**」をご覧の上、何卒ご協力賜りますようお願い申し上げます。

その他の収入としましては、『大学史研究』（紀要）の非会員への売上金、3,000 円がありました。

2010 年度の総収入額としましては、¥4,389,916 円、前年度繰越金を除いた実収入額は、692,034 円でした。

【 支出 】

第 33 回セミナー開催準備費は、50,000 円でした。

印刷費は、0 円です。これは「大学史研究通信」発行の印刷、会員への諸連絡の印刷物、あるいは、年会費納入依頼通知文書の印刷等に関わる経費です。従来より事務局員が大学等で負担しているケースが多く、今後はこうした負担がなるべくかからぬように対処していきたいと考えております。

通信費の支出は、49,940 円です。これは、「大学史研究通信」の発送、年会費納入依頼通知の発送、セミナーの出欠調査ハガキや、その他宅配便等の経費です。

消耗品・諸雑費は、420 円です。これは、事務局運営にあたっての文房具・ラベル・用紙・送金手数料等の経費にあたります。

また、謝金として、182,000 円を支出いたしました。これは、「大学史研究通信」の発送等一度に大量の作業がある際のアルバイト依頼、その他としてセミナーのパネリストへの謝礼や交通費に関わる経費となります。

次年度繰越は、4,027,193 円、来年度繰越金を除く総支出は 362,723 円でした。繰越金

を除く収支の差は、329,311 円の黒字となりました。

「2010 年度会計報告」に明記されているとおり、当該年度の会計については、深野政之会員(セミナー時点で、京都FD開発推進センター 専門研究員)に監査を依頼し、精細な監査の上、会計の適正処理をご承認いただきました。

御多忙のところ監査業務を賜りました深野会員には、この場を借りて心よりお礼申し上げますとともに、次年度も引き続きお願い申し上げます次第です。

*** 2011 年度予算案**

大学史研究会では、次年度の予算案につきましては、事務局による基本案を総会に提示し、ここでの審議を経て、最終決定をいたしております。

例年と同様、2011 年度予算も上記の手順にしたがって予算案を決定しましたので、以下にご報告いたします。

【 収入案 】

収入は、年会費と紀要売上金の 2 つになります。とりわけ、本研究会の運営経費は、年会費の納入に大きく依存しております。

年会費につきましては、前年度並みの 650,000 円を収入予定額として設定いたしました。繰り返しで恐縮ではありますが、2011 年度も会員各位のご理解ご協力をお願い申し上げます次第です。

紀要売上金は、昨年度の売上金を参考に 30,000 円としました。このような金額を収入予定に組み込めるのは、編集委員会の方々のご尽力により売り上げを伸ばしていただいていることが関わっております。この場を借りてお礼申し上げますとともに、今後とも何卒よろしくお願い申し上げます。

なお、第 33 回セミナー開催準備費の戻し入れ額を 50,000 円と見積もっております。セミナー開催経費につきましては、後述の支出案をご参照下さい。

総収入額は 4,760,193 円、繰越金を除く総収入額は 733,000 円といたしました。

【 支出案 】

支出案は、例年の予算案で設定している支出項目と支出額を考慮しつつ、算出いたしました。

『大学史研究』(第 25 号)を発行する予定になっております。その発行経費(制作・

印刷・発送費の総計)を450,000円計上しました。ここ数年の実績を踏まえ、一回分の経費としましたが、紀要発行は研究会の活性化にとって最も重要な事業ですので、投稿論文の本数に応じ、その都度柔軟に対応させていただきたいと考えております。

なお、2011年度は名簿発行年にあたります。発行経費(制作・印刷・発送費の総計)は60,000円といたしました。

セミナー開催準備費とは、セミナー開催の準備にあたって開催校に事前にお預けする費用です。通常ですと参加費で経費は賄えますので、収入欄にも記載しましたように、翌年度そのまま戻し入れていただくことが想定されます。

大学史研究会ホームページにつきましては、研究会の情報発信機能として、今後一層の充実と活用を図る予定です。この管理費として、30,000円を含めております。

編集委員会および事務局の会議費・交通費につきましては、過去の総会で承認された項目ですので、それぞれ50,000円を計上いたしました。研究会の円滑な運営を目指して、定期的に会合を開けるよう努めたいと思っております。

その他の諸経費も、ほぼ例年通りの額を計上しております。非会員への原稿依頼等に必要な謝金20,000円、予備費100,000円も含めました。

2011年度から次年度への繰越金は3,815,193円、繰越金をのぞく総支出予算案は945,000円を予定しております。

本研究会におきましては、全体として緊縮財政をうたってはおりますものの、研究会として有益と認め得る支出につきましてはやぶさかではありません。大学史研究会の発展のため、あるいは、会員サービスのために必要な支出の要請がありました際には、事務局で検討し、それが妥当であると判断した場合には、これにお応えしていきたいと考えております。今後とも会員各位からのご提案ご教示を歓迎いたしますとともに、研究会の将来的なビジョンも併せてご検討いただければ、幸いに存じます。

以上、「2010年度収支報告」および「2011年度予算案」につきまして、ご質問ご提案等ございましたら、事務局までご連絡のほどよろしくお願い申し上げます。

(事務局会計担当：沖塩有希子)

大学史研究会 総会 資料 (2010年11月20日: キャンパスプラザ京都)

大学史研究会 2010年度 会計報告
(自2009年12月5日 ~ 至2010年11月19日)

収入

支出

費目	金額	費目	金額
前年度繰越金	¥3,697,882	第33回セミナー開催準備費	¥50,000
年会費・入会金	¥576,000	編集委員会会議費・交通費	¥27,553
『大学史研究』売上金	¥3,000	事務局会議費・交通費	¥52,810
第32回セミナー開催経費 等戻し入れ	¥111,686	印刷費	¥0
利息	¥1,348	通信費	¥49,940
		消耗費・諸雑費(文具・振込み手数料等)	¥420
		謝金(セミナーパネリスト、およびアルバイト代)	¥182,000
		次年度繰越金	¥4,027,193
計	¥4,389,916	計	¥4,389,916

前年度繰越金を除く総収入 金 692,034 円

次年度繰越金を除く総支出 金 362,723 円

上記収支差し引き 金 329,311 円

上記のとおり、ご報告いたします。

事務局 会計担当 沖塩有希子



上記の会計報告について会計監査を実施した結果、領収書ならびに預金通帳等は全て妥当かつ正確に処理されていることを認めましたのでご報告いたします。

会計監査 深野 政之



大学史研究会 2011年度 予算案
(自 2010年11月20日 ～ 至 2011年総会開催前日)

収入		支出	
費目	金額	費目	金額
前年度繰越金	¥4,027,193	「大学史研究第24号」 制作・印刷・発送費	¥450,000
年会費・入会金	¥650,000	名簿発行経費	¥60,000
『大学史研究』売上金	¥30,000	第34回セミナー開催準備費	¥50,000
第33回セミナー開催準備 費戻し入れ	¥50,000	ホームページ管理費	¥30,000
利息	¥3,000	編集委員会会議費・交通費	¥50,000
		事務局会議費・交通費	¥50,000
		印刷費	¥20,000
		通信費	¥75,000
		消耗品・諸雑費(文具・ 振込み手数料等)	¥10,000
		謝金(アルバイト代)	¥30,000
		謝金(非会員への執筆依頼等)	¥20,000
		予備費	¥100,000
		次年度繰越金	¥3,815,193
計	¥4,760,193	計	¥4,760,193

前年度繰越金を除く総収入 金 733,000 円

次年度繰越金を除く総支出 金 945,000 円

上記のとおり、ご提案いたします。(大学史研究会 事務局)

2010年度までの年会費未納の方へ — 納入のお願い —

本通信に記載の会計報告のとおり、大学史研究会の収入は、会員各位からの年会費(一般会員：5,000円、大学院在学・日本学術振興会特別研究員：3,000円)に大きくよって

おります。

2010年度の全会員数に対する年会費納入率は58.8%であり、未納の会員も少なからぬ状況です。

そこで、2010年度の年会費納入依頼通知はすでに昨年中に発送済みではありますが、2011年1月15日現在、過年度分の年会費が未納の方につきましては、年会費納入依頼通知と払込票を再送させていただくことにしました。研究会の円滑な運営と発展のために、ご理解ご協力をお願い申し上げます。詳細につきましては、同封しております納入依頼通知をご覧ください。未納年度分の年会費の合計金額を明示しております。

また、年会費3ヶ年度分以上の滞納の会員各位につきましては、研究会への継続参加のご意志を年会費納入によって確認できるまで、大学史研究会からの諸連絡や「研究通信」、『大学史研究』（紀要）等の発送を停止する規定になっております。該当する会員各位へのご連絡通知にはこの点も記載されておりますので、こちらもご留意願います。

なお、本依頼通知発送と入れ違いに年会費を納入いただきました場合には、何卒ご容赦のほどお願い申し上げます。

—— 年会費納入払込先 ——

郵便振替口座 : 大学史研究会 口座番号 00120-3-47583

または

銀行口座 : 大学史研究会 三井住友銀行 池袋東口支店 (店番 671)
普通預金 (口座番号 3456109)

(事務局会計担当 : 沖塩有希子)

セミナー参加記

山崎慎一(桜美林大学高等教育研究所)

2010年11月20日～21日に、キャンパスプラザ京都において開催された大学史研究会第33回研究セミナーに参加をしました。今年の5月に本研究会の会員になり、今回が研究セミナーへの初参加となります。2010年8月に東京で行われた若手会員交流会に参加した時、その時の活発な議論の様子を見て、今回の研究会がどういったものになるのか、期待をして京都へと向かいました。京都は紅葉のシーズンが重なり、多くの人々が訪れていましたが、大会会場となったキャンパスプラザ京都は、駅のすぐ近くにあり、混雑を気にすることなく訪れることが出来ました。

大会の初日は、シンポジウム「教養教育の比較史的考察」として、4名のパネリストが、イギリス、フランス、アメリカ、日本の教養教育に関する歴史的な議論やその取組みについて報告がありました。2日目は、4名が自由研究発表を行い、これは1発表につき1時間もの時間が与えられるという、非常に充実した中身のものとなっていました。従って、全ての感想を書くと、かなりの分量になってしまいますので、今回はシンポジウムの行われた1日目を中心に書いております。

シンポジウムでは、各国固有の教養教育に関する議論や問題が報告されましたが、そ

の一方で、教養教育の重要性に対する認識は、共有されている部分も多いように感じました。この議論は、報告も含め4時間近くに及び、時間的にも質的にも充実したものになっていましたが、教養教育の問題は根深く、かなりの時間を議論に割いてもまだまだ足りないような状況でした。しかし、今回研究セミナーで行われた議論は、今後続くものになっていたと思います。

個人的な感想としては、自分の不勉強ゆえ、教養教育の議論の中で、リベラルアーツ、学士力、コンピテンスといった様々な用語が飛び交い、また各国の教養教育の考え方にも、微妙な相違が見られる場合もあり、正直なところ、かなり戸惑った部分もありました。しかし、教養教育などの用語はともかくとして、教養教育の中身そのものの考え方や理念は、大学が教育機関として存在する限り、常に意識されるべきものではないかと感じ、改めてこの問題の重要性に気づくいい機会になりました。

しかし、教養教育というテーマを考えてみた時に、一時期ほど活発に議論がされているものではないと感じています。大学や学会も、高等教育政策に載る形になる時が見られ、また近年の競争を煽る傾向が、流行りのテーマを取り組まなければいけないというある種の圧力となり、結果的に大学人の自由な議論が阻害されているように見えます。こうした状況においても、本研究会では教養教育という難題に積極的に取り組んでおり、何百何千の人が学会に参加しているわけではないが、こうした研究課題に対する姿勢は、日本の高等教育研究の発展のために、重要な役割を果たしているのではないのでしょうか。

来年は岩手大学で研究セミナーが開催される予定になっており、シンポジウムのテーマについては現在募集がされています。今回のセミナーのような活発な議論がなされることを期待しております。また、大学史研究通信第64号の中で、盛岡の魅力について触れられており、自分は岩手県には一度も訪れたことがないので、個人的にも岩手大学への訪問を楽しみにしています。

『大学史研究』編集委員会開催のお知らせ

次号、『大学史研究』(第25号)の刊行に向けた編集会議を2月に開催する予定です。投稿を検討されている方は、締切等をお知らせ致しますので、事務局紀要担当の岡田大士(daishi@home.nifty.jp)までご連絡下さい。

会員新刊ニュース

鈴木秀幸『幕末維新时期地域教育文化研究』日本経済評論社(2010/10)
鈴木秀幸『大学史および大学史活動の研究』日本経済評論社(2010/10)

事務局からのお知らせ

「会員新刊ニュース」情報提供のお願い

本通信では、会員の研究活動の紹介を心がけております。新刊を発行されたご本人、あるいは会員が新刊を発行されたという情報を得られた方は、事務局(代表Eメールアドレス:jshshe@wwwsoc.nii.ac.jp)もしくは本通信編集担当の井上までご一報いただければ幸いです。

原稿募集

『大学史研究通信』第66号は2011年4月30日に発行予定です。会員諸氏の現在の研究紹介、文献案内、会員主催行事のお知らせなど、どのようなものでも結構です。皆様からの投稿を心よりお待ちしております。原稿提出・お問い合わせ等は、事務局（代表Eメールアドレス：jshshe@wwwsoc.nii.ac.jp）、もしくは本通信編集担当の井上までお願いいたします。

住所・所属変更届のお願い

住所や所属（昇任・学位取得も含む）に変更のある会員は事務局までご一報くださるようお願いいたします。また、教授・研究のために海外にご滞在予定の方も、海外でのご連絡先をお教えいただけましたら幸いです。ご連絡は事務局代表Eメールアドレス（jshshe@wwwsoc.nii.ac.jp）までお願いいたします。なお、変更届にあたっては、年会費払込票（郵便口座）の「通信欄」を利用することも可能です。

『大学史研究通信』バックナンバー希望者に頒布いたします

『大学史研究通信』第14号～現在発行号までを希望者に頒布いたします。事務局代表Eメールアドレス（jshshe@wwwsoc.nii.ac.jp）までご連絡ください。折り返し、請求方法をご連絡いたします。

編集後記

会員の皆様のご協力により、第33回研究セミナーも無事、盛況のうちに終えることができました。この場をおかりして厚くお礼申し上げます。

「事務局からのお知らせ」でも協力をお願い致しておりますが、会員諸氏の現在の研究紹介、文献案内、会員主催行事のお知らせなどの情報を事務局までご連絡いただければ幸いです。本通信が、会員諸氏の交流の場となりますよう内容の充実を今後もはかつて参りたいと思います。ご協力のほど、よろしくお願い申し上げます。

大学史研究会がより一層充実した会となるよう、今年も務めて参りたいと思います。みなさま、今年もどうぞよろしくお願い申し上げます。

（井上 美香子 記）

『大学史研究通信』第65号の編集は事務局・井上美香子が担当いたしました。

連絡先 〒812-8581 福岡市東区箱崎6-10-1
九州大学大学文書館 百年史編集室
TEL：092-642-7189 FAX：092-642-3956
E-mail: mikako-inoue@luck.ocn.ne.jp

『大学史研究通信』第66号は、2011年4月30日発行予定です。

大学史研究会事務局

〒739 - 8512 広島県東広島市鏡山 1-2-2
広島大学 高等教育研究開発センター 福留 東土研究室 大学史研究会
TEL&FAX : 082-424-6231
E-mail: fukudome@hiroshima-u.ac.jp
URL: <http://wwwsoc.nii.ac.jp/jshshe/>

事務局へのお問い合わせは、なるべく下記代表Eメールアドレスまでお願いいたします。
E-mail: jshshe@wwwsoc.nii.ac.jp

大学史研究会事務局員（五十音順）

浅沼 薫奈（大東文化大学）	井上 美香子（九州大学大学文書館百年史編集室）
岡田 大士（中央大学）	沖塩 有希子（青山学院大学非常勤）
五島 敦子（南山短期大学）	福留 東土（広島大学）